

大阪国際がんセンターにおける S-1 の服薬指導概要

① 用法用量を説明する。

・空腹での服用は避けるよう指導する（空腹時服用で 70%程度に血中濃度が低下する可能性あり：メーカー情報より）。

・飲み忘れはできるだけしないようにする。服用間隔は 10 時間以上あける必要があり（メーカー情報）、それより短くなるようであれば服用しないこと、および 2 回分をまとめて服用しないことを指導する。

② 副作用の初期症状と対処法を指導する。

下記の副作用以外にも異常を感じたならば、すぐに当センター（代表：06-6945-1181）に連絡する旨を指導する（夜間祝日であっても当直医が適切な指示を出すため）。

骨髄抑制…感染症対策（手洗い・うがい）。38℃以上の発熱があれば病院に連絡する。

悪心…服用開始 1 週間ほど生じる場合があり、頓用の制吐剤があれば 6 時間毎に服用することを説明する。悪心が生じた場合には、栄養価のことは考えずに食べられるものを選択し、1 日 5,6 回に分けて少量ずつ食事摂取する。

口内炎…服用開始 1 週間後ごろ生じる場合がある。予防が可能な副作用であり、毛先の細かい柔らかい歯ブラシで力を入れずに 1 日 3 回歯磨きをする。ハチアズレ®などの含嗽薬があれば 1 日 5 回程度、なければ水道水で頻回にうがいをする事が有効な予防法である。

下痢…服用開始 2 週間ごろ生じる場合がある。下痢が生じはじめた場合には、刺激物などの摂取は控え、脱水予防のため水分を多めに服用する旨を説明する。下痢が普段の排便回数より 1 日 4 回以上増加した場合や血便、強い腹痛などを伴う場合にはすぐに病院に連絡する。

皮膚着色…服用開始 2 週間以降に生じる場合がある。長時間の日光を浴びることを避ける。服用中止後、元の状態に改善する。

眼のかすみ、流涙…服用開始数ヶ月後に生じる場合がある。涙があふれることが多くなったり、目のかすみ、視力低下を感じた場合は、次回診察時に主治医に報告することを説明し、眼科医の受診を薦める。

間質性肺炎…発症時期は不明。ほとんど生じないが、初期症状（空咳、息切れなど）が感じられた場合には、すぐに病院に連絡する。

③ S-1 ダイアリーを毎日記載し、主治医の診察時に提示することを説明する。

- ・体温測定は毎日 1 回決まった時間に行う。
- ・服用期間だけでなく休薬期間も記載を続ける。